

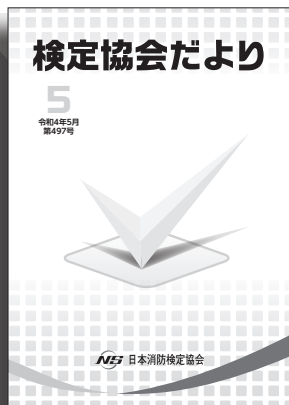
# 検定協会だより

5

令和4年5月  
第497号



# 目次



令和4年5月号

<http://www.jfeii.or.jp>

巻頭のことば

## 1 最新技術の活用と神戸の取り組み

神戸市消防局長 鍵本 敦

協会情報

## 4 消防ポンプ自動車の機関及び車台一覧

消火・消防設備部 消防設備課

## 7 放水型ヘッド等スプリンクラー設備の評価結果概要について

虎ノ門事務所

## 9 「直線上昇感度試験機」の更新について

警報設備部 感知設備課

お知らせ

## 17 「令和4年度一般公開」を終えて

企画研究部 情報管理課

## 18 有効期限を経過した受託評価品目

## 19 協会通信・業界の動き・ 消防庁の動き

## 26 検定・性能評価・受託評価数量 (令和4年4月)

## 24 新たに取得された型式一覧

## 最新技術の活用と 神戸の取り組み



神戸市消防局長  
鍵本 敦

### はじめに

神戸は12世紀後半ごろ「大輪田の泊」と呼ばれていた港を基点に大陸と交流し、栄えてきた歴史があり、海と山に囲まれた豊かな自然環境の中で、国際性や多様性を育みながら、新しい価値や生活様式を創造してきました。

現在は陸、海、空（神戸空港）の総合交通拠点となっており、訪れた人々が自然とまちへ誘われる「美しき港町・神戸の玄関口」を目指し臨海部や三宮駅周辺などの再開発が進められています。

また、「神戸医療産業都市」として、産官学医の連携によりスーパーコンピュータの「富岳」をはじめとする様々な最新技術を活用した研究が行われています。

### ICT・AIなどの最新技術の活用

貴協会におかれましては、消防用機械器具等の検定業務や性能評価業務だけでなく、近年の著しい技術革新に対応した消防用機械器具等に関する調査・研究も行われています。私たち消防機関も新しい生活様式や社会環境の変化に合わせて、新たな技術や知見を取り入れるなど時代に即した対応が求められています。

当局では、「行政手続きのスマート化」の一環として、許認可申請等に係る手数料についてクレジットカード支払いシステムを導入し、遠隔地から手数料を支払うことができるよう各種オンライン収納システムの拡充や各種届出などの電子申請を積極的に進め、市民や事業者のサービス向上に努めています。

119番通報の分野では通報現場と消防管制室の間で迅速に動画情報を共有することができる映像通報システム「KobeLive119」を全国に先駆けて導入しました。昨年11月からは応急手当動画を通報者へ送信する機能を追加したところであり、一人でも多くの命

---

を救うことにつながることを期待しています。

各分野との共同事業としては、「感染拡大防止のための救急車の換気に関する研究」において、理化学研究所・東京工業大学・トヨタ自動車(株)と協力し、スーパーコンピュータ「富岳」によりウイルス飛散のシミュレーションを行い、現在行っている換気方法の有効性を確認しました。その他にも、「AI防災協議会」と共同で開発に取り組んだ「消防団スマート情報システム」には、現在、約2,000人の消防団員が登録し、消防団員がスマートフォンの無料通信アプリ等を活用して自然災害時に情報共有を早期に行うことができるようになりました。

また、今後30年で70%～80%の確率で来ると言われている南海トラフ地震や激甚化する自然災害への対応力を向上させるため、自助・共助・公助をさらに充実させる必要があります。特に阪神・淡路大震災を機に結成した自主防災組織「防災福祉コミュニティ」に対しては、コロナ禍で活動が制限される状況においても研修や訓練等が実施できるようICTを活用し、工夫しながら一層の支援を進め地域防災力の向上に努めているところです。

## 神戸市の火災予防条例

さて、火災から命を守るためには、火災を早期に発見し、被害が大きくなる前に消火し、そして確実に避難することが非常に重要です。過去多くの犠牲者が出た火災を契機として法令改正されてきたことから、警報設備や消火設備、避難器具等が十分に性能を発揮することが市民の命を守ることにつながるため、貴協会の果たす役割は非常に大きなものです。

確実な避難という点においては、神戸市では火災予防条例で避難経路の確保について2つの規定を設けています。

1つは、不特定多数の方が利用するビルの避難口の扉を緑色に着色し、いわゆる「グリーンドア」とする規定です。これは、過去に発生したデパート火災で多くの方が犠牲になったことを教訓に昭和49年から条例化しており、建物の管理者が普段から避難口であることを認識し、避難の妨げとなる物品を置かないようにすることと、避難口の扉が一目でわかることを目的としています。

もう一つは、就寝を伴う居室があるホテルや病院、共同住宅、福祉施設において、通常の出入り口の他にバルコニー等から避難する「二方向避難経路」を確保する規定です。この規定も過去に発生した共同住宅の火災を教訓としており、逃げ遅れた小学生を隣の住人がバルコニーの破壊板を破って助け出した事案を元に昭和59年から条例化された

---

ものです。火災からより安全に避難することができる取り組みを広く知ってもらうことで、市民や、神戸市を訪れる全ての方の安全・安心につなげていきたいと考えています。

### 終わりに

神戸は、阪神・淡路大震災など、幾多の困難を乗り越えてきました。当局では消防を取り巻く社会課題や困難を克服するため長期的な展望のもと、歩みを止めず、これまでの取り組みを再確認し、かつ先進的な取り組みを進めてまいります。また、市民の安全で安心な暮らしを守り、国内外の防災に貢献する存在となれるよう努力してまいります。

結びとなりましたが、日本消防検定協会並びに全国の消防関係者皆様方の益々のご発展を祈念し、巻頭の言葉とさせていただきます。



# 消防ポンプ自動車の機関及び車台一覧

## 消火・消防設備部消防設備課

下記一覧表は当協会が試験を行い、動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令（昭和61年自治省令第24号）に適合するものと判断した消防ポンプ自動車に用

いる機関、車台及び駆動装置を各会社別にまとめたものです。（令和4年4月1日現在）

消防ポンプ自動車の機関及び車台一覧表

令和4年4月1日現在

社名	機 関			車 台				車 両 総重量 (t)	駆 動 装 置 型 式 (キヤ比)	備 考 (適用補助型式等)				
	型 式	最高回転等 (kW(PS)/rpm)	総 排気量 (cc)	車 名 型 式	車 台 型 式	ホ ル ペー ス (m)	最 大 積 載 量 (t)							
日 野 自 動 車 株	N O 4 C	100(136)/3,000 110(150)/2,500	4,009	SKG-XZU600E	XZU600	2.525	3.00	7.30	HWOM35A (0.981) (1.106)	電気式がバナ (CD-1)				
				SKG-XZU640M	XZU640	2.80								
				SKG-XZU685M◎	XZU685									
				TKG-XZU600E	XZU600	2.525								
				TKG-XZU640M	XZU640	2.80								
				TKG-XZU685M◎	XZU685									
				TPG-XZU600E	XZU600	2.525								
				TPG-XZU640M	XZU640	2.80								
				2RG-XZU600E	XZU600	2.525								
				2PG-XZU600E	XZU600	2.525								
				2RG-XZU640M	XZU640	2.825								
				2PG-XZU640M	XZU640	2.80								
				2KG-XZU685M◎	XZU685	2.80								
				J O 7 E	146(198)/2,850 177(240)/2,500	6,403					LKG-FE7JGAA	FE7JGA	3.75	8.50
	LDG-FE7JGAA	FE7JGA												
	LKG-FE7JAA	FE7JJA	4.25				8.60							
	LDG-FE7JAA	FE7JJA												
	LKG-FE7JCAA	FE7JKA	4.54				8.70							
	LDG-FE7JCAA	FE7JKA												
	QKG-FE7JGAA	FE7JGA	3.75				8.50							
	QKG-FE7JAA	FE7JJA	4.25				8.60							
	QKG-FE7JCAA	FE7JKA	4.54				8.70							
	146(198)/2,850 162(220)/2,500	6,403	SKG-FD7JGAA				FD7JEA	3.28	4.50	8.00	LFF (1.073) HWOM35A (1.176)	電気式がバナ (CD-II、水槽車、 化学車I、II、はしご 車、屈折はしご車等)		
			SDG-FD7JGAA	FD7JEA										
SKG-FD7JGAA			FD7JGA	3.75	4.45	8.00								
SDG-FD7JGAA			FD7JGA											
SKG-GD7JGAA			GD7JGA	3.75	6.40	10.99								
SDG-GD7JGAA			GD7JGA											
SDG-FX7JGAA◎			FX7JGA	3.75	4.05	8.00								
SDG-GX7JGAA◎			GX7JGA	3.75	6.80	11.30								
146(198)/2,850 162(220)/2,500			6,403	TKG-FD7JGAA	FD7JEA	3.28	4.50	8.00					LFF (1.073) HWOM35A (1.176)	
				TKG-FD7JGAA	FD7JGA	3.75								
	TKG-GD7JGAA	GD7JGA		3.75	6.40	10.99								

J 0 8 E	146(198)/2,850 169(230)/2,500	7,684	LDG-FT8JGAL◎	FT8JGA	3.75	6.80	13.00	HWOM35A (1.176)	電気式ガバナ (水槽車Ⅱ、化学車Ⅱ～Ⅳ、大Ⅰ、はしご車、屈折はしご車等)
A 0 5 C	173(235)/2350 177(241)/2300	5,123	2PG-FD2ABA 2KG-FD2ABA 2DG-FD2ABA	FD2AB	3.32 3.79	3.90 3.80	8.00	HWOM35A (1.418)	電気式ガバナ (CD-Ⅱ、水槽車、化学車Ⅰ、Ⅱ、はしご車、屈折はしご車等)
			2KG-FX2ABA◎	FX2AB	3.79	3.40	8.00		
			2PG-GD2ABA 2KG-GD2ABA 2DG-GD2ABA	GD2AB	3.79	6.30	10.99		
			2PG-GX2ABA◎ 2KG-GX2ABA◎	GX2AB	3.79 4.00	6.00 6.80	11.30		
			2PG-FE2ABA 2KG-FE2ABA 2DG-FE2ABA	FE2AB	3.79 4.58	7.50 7.80	14.50		
			2PG-FE2ACA 2KG-FE2ACA 2DG-FE2ACA	FE2AC		6.90			
A 0 9 C	230(313)/2,200 235(320)/1,800	8,866	LKG-FH1AHAA LKG-FH1ALAA	FH1AHA FH1ALA	4.18 4.88	9.10 8.90	20.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672) AC870W (1.420)(1.610)	電気式ガバナ (水槽車Ⅱ、化学車Ⅱ～Ⅴ、はしご車、屈折はしご車、大型高所放水車等)
	271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	LDG-FR1APBA LDG-FS1APBA LDG-FW1ATBA LDG-PR1APBF ※	FR1APB FS1APB FW1ATB PR1APB	5.77 5.55 6.35 5.51	13.90 13.60 13.30 —	22.00 22.00	ZF110R (0.97) ZF110S (0.97)	
	230(313)/2,200 235(320)/1,800	8,866	QKG-FH1AHAA QKG-FH1ALAA	FH1AHA FH1ALA	4.18 4.88	9.10 8.90	20.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672) AC870W (1.420)(1.610)	
	271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	QDG-FR1APBA QKG-FS1APBA QDG-FW1ATBA	FR1APB FS1APB FW1ATB	5.77 5.55 6.35	13.90 13.60 13.30	22.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672) AC870W (1.420)(1.610)	
	230(313)/2,200 235(320)/1,700	8,866	QPG-FH1AHDA QPG-FH1ALDA	FH1AHD FH1ALD	4.18 4.88	9.10 8.90	20.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672) AC870W (1.420)(1.610)	
	271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	QDG-FR1APEA QPG-FS1APEA QPG-FW1ATEA QDG-PR1APEF ※	FR1APE FS1APE FW1ATE PR1APE	5.77 5.55 6.35 5.51	13.60 13.50 13.30 —	22.00 22.00	ZF110R (0.97) ZF110S (0.97)	
	230(313)/2,200 235(320)/1,700	8,866	2PG-FH1AGA	FH1AG	4.8	8.80	18.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672) AC870W (1.420)(1.610)	
	271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	2DG-FR1AJA 2PG-FQ1AJG 2PG-FW1AJG 2PG-FW1AHG 2DG-PR1APJF ※	FR1AJ FQ1AJ FW1AJ FW1AH PR1APJ	5.7 5.725 6.325 7.075 5.51	13.30 13.90 13.00 15.90 —	22.00 25.00 21.55	ZF110R (0.97) ZF110S (0.97)	
4 HK 1 F	93(127)/2,700 154(210)/2,400	5,193	2RG-FRR90S2	FRR90	3.26 3.79	3.70 3.75 3.70	8.00	PFC (1.235)	電気式ガバナ (CD-Ⅱ、水槽車、化学車Ⅰ～Ⅳ等)
			2PG-FRR90S2	FRR90	3.26 3.79	3.70 3.75 3.70	8.00		
			2RG-FSR90S2	FSR90	3.26 3.79	6.00 6.20	10.99		
			2PG-FSR90S2	FSR90	3.26 3.79	6.00 6.20	10.99		
			2RG-FRS90S2◎	FRS90	3.79 3.70	3.20 2.60	8.00		

検定協会だより 令和4年5月

いすゞ自動車株			2PG-FRS90S2◎	FRS90	3.79	3.20	8.00				
					3.70	2.60	8.00				
			2RG-FSS90S2◎	FSS90	3.79	5.80	10.99				
							11.95				
					3.70	5.50	10.99				
			2PG-FSS90S2◎	FSS90	3.79	5.80	10.99				
							11.95				
					3.70	5.50	10.99				
			93(127)/2,700	5,193	2PG-FVR90U2	FVR90	4.10			7.90	16.00
							9.00				
				8.10							
		2RG-FTS90S2◎	FTS90	4.25	7.60	14.70					
		2PG-FTS90S2◎									
4 J Z 1 F	103(140)/3,200 110(150)/2,800	2,999	2RG-NLR88N	NLR88	2.75	1.75	4.99	PFA (1.113) (1.195) PFA-1 (1.023) (0.954) (0.977) PFE (1.105)	電気式カテナ		
			2RG-NMR88N	NMR88	2.75	3.00	7.49				
			2RG-NLS88AN◎	NLS88	2.76	1.65	4.99				
			2PG-NMS88AN◎	NMS88	2.76	2.00	6.50				
						7.00					
6 WG 1 F	269(366)/1,900 272(370)/1,800	15,681	2DG-CYM52CM	CYM52CM	5.755	13.1	22.00	TI-232 (2.118) (2.000)(1.895) (1.800)(1.500) (1.385) PFF (1.650)	電気式カテナ (CD-II、水槽車I-B、II、化学車I～V、大I、はしご車、屈折はしご車等)		
トヨタ自動車株	N O 4 C	100(136)/3,000 110(150)/2,500	4,009	SKG-XZU600H	XZU600	2.525	3.00	7.30	HWOM35A (0.981) (1.106)	電気式カテナ (CD-I)	
				SKG-XZU640	XZU640	2.80					
	SKG-XZU685◎	XZU685									
	TKG-XZU600H	XZU600		2.525							
	TKG-XZU640	XZU640		2.80							
	TKG-XZU685◎	XZU685									
	TPG-XZU600H	XZU600		2.525							
	TPG-XZU640	XZU640	2.80								
	100(136)/3,000 110(150)/2,380	4,009	2RG-XZU600H	XZU600	2.525						
			2PG-XZU600H	XZU600							
			2RG-XZU640	XZU640	2.825						
			2PG-XZU640	XZU640							
			2KG-XZU685◎	XZU685	2.80						
UDトラックス株	4 HK 1 F	93(127)/2,700 154(210)/2,400	5,193	2RG-BRR90S2	BRR90	3.26	3.70	8.00	PFC (1.235)	電気式カテナ (CD-II、水槽車、化学車I～IV等)	
							3.75				
						3.79	3.70				
				2PG-BRR90S2	BRR90	3.26	3.70	8.00			
								3.75			
						3.79	3.70				
				2RG-BSR90S2	BSR90	3.26	6.00	10.99			
						3.79	6.20				
				2PG-BSR90S2	BSR90	3.26	6.00	10.99			
						3.79	6.20				
			2RG-BRS90S2◎	BRS90	3.79	3.20	8.00				
					3.70	2.60	8.00				
			2PG-BRS90S2◎	BRS90	3.79	3.20	8.00				
					3.70	2.60	8.00				
			2RG-BSS90S2◎	BSS90	3.79	5.80	10.99				
							11.95				
					3.70	5.50	10.99				
			2PG-BSS90S2◎	BSS90	3.79	5.80	10.99				
							11.95				
					3.70	5.50	10.99				
93(127)/2,700 177(240)/2,400	5,193	2PG-BVR90U2	BVR90	4.10	7.90	16.00					
					9.00						
					8.10						
		2RG-BTS90S2◎	BTS90	4.25	7.60	14.70					
		2PG-BTS90S2◎									

注：車名型式中「※」は全輪操舵、「◎」は全輪駆動であることを示す。





# 放水型ヘッド等スプリンクラー設備の 評価結果概要について

虎ノ門事務所

## 1 放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備の総合評価結果

令和3年4月から令和4年3月までに、放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備として総合評価を受けたものは次のとおりでした。

評価番号	主要構成装置等		依頼者	評価承認年月日
2号 評価	S040	可動式ヘッド (小型ヘッド)	株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	R3.10.19

## 2 放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備の型式評価結果

令和3年4月から令和4年3月までに、型式評価を行った製品については、次に掲げる試験番号が付与され、型式適合評価に合格したのものには、「認定マーク」が貼付されております。

依頼者	評価番号	主要構成装置	型式記号	試験番号	承認年月日
中部国際空港株式会社	S036	制御部	GLB-CBS S12	S036C006	R3.5.6
中部国際空港株式会社	S036	制御部	GMC-CAW	S036C007	R3.5.6
中部国際空港株式会社	S036	手動操作部	GML-CA J8	S036M003	R3.5.6
中部国際空港株式会社	S036	受信部	GMP-CB J8	S036R002	R3.5.6
ホーチキ株式会社	S035	感知部	GDS-AB□	S035D004	R3.6.28
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	放水部	MNM-150E	S040H001	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	感知部	MDTJ005	S040D001	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	制御部	MUWJ009	S040C001	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	制御部	MUWJ010	S040C002	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	制御部	MUJJ002	S040C003	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	制御部	MUCJ006	S040C004	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	制御部	MUTJ009	S040C005	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	制御部	MVAJ002-150-V	S040C006	R3.12.14
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント	S040	手動操作部	MUBJ004	S040M001	R3.12.14

### 3 型式適合評価依頼件数及び型式適合評価依頼個数

令和3年4月から令和4年3月までの放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備の型式適合評価依頼件数及び型式適合評価依頼個数は次のとおりでした。

#### (1) 型式適合評価依頼件数

型式適合評価依頼件数	118
------------	-----

#### (2) 型式適合評価依頼個数

主要構成装置		月別					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
放水部	固定式ヘッド	337	432	232	120	914	513
	可動式ヘッド	0	3	2	8	0	4
感知部		0	3	2	16	0	4
制御部	制御盤	4	1	18	3	9	11
	その他	8	7	56	33	11	281
手動操作部		10	3	36	2	26	17
受信部		0	0	1	0	0	0

主要構成装置		月別						合計
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
放水部	固定式ヘッド	109	295	1,123	427	618	92	5,212
	可動式ヘッド	7	1	6	6	0	3	40
感知部		7	2	8	6	0	2	50
制御部	制御盤	14	7	12	14	9	8	110
	その他	35	120	309	67	46	41	1,014
手動操作部		22	7	18	15	8	9	173
受信部		0	0	1	0	0	1	3



# 「直線上昇感度試験機」の更新について

警報設備部 感知設備課

## 1. 概要

この度、直線上昇感度試験機が新しくなりましたので紹介いたします。直線上昇感度試験機とは、火災で発生した熱を検出する感知器である差動式スポット型感知器及び補償式スポット型感知器の感度試験で使用する試験機の一つです。

差動式スポット型感知器とは、周囲の温度の上昇率が一定の率以上となったときに火災を感知するものです。補償式スポット型感知器とは、周囲の温度が一定の温度以上となったときに火災を感知する定温式スポット型感知器と差動式スポット型感知器の性能を併せ持つものです。

試験機の構造は、下図のとおりです。試験機の奥に設けたヒーターで発生させた自然対流による熱気流を感知器に加える仕組みとなっています。

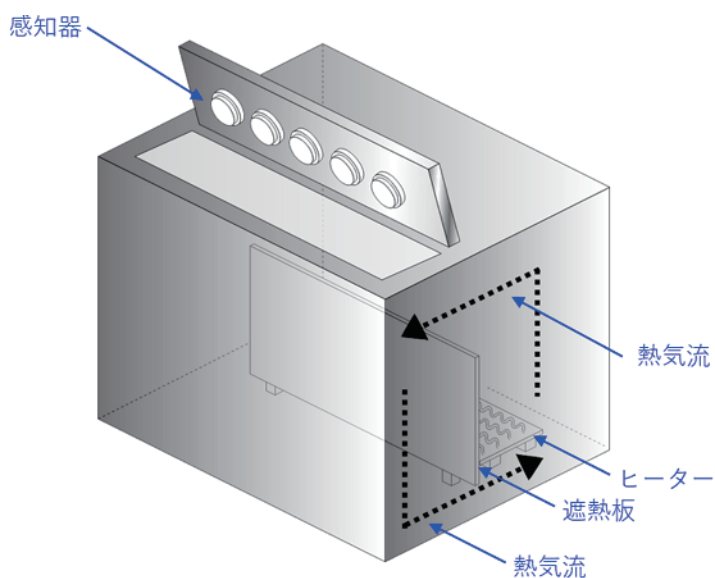


図1. 直線上昇感度試験機の概略図

試験できる項目は、直線上昇試験と定温点試験です。直線上昇試験は、差動式スポット型感知器と補償式スポット型感知器に対して行います。定温点試験は、補償式スポット型感知器に対して行います。詳しい試験内容は下表のとおりです。

	試験内容	
	作動試験	不作動試験
1種	室温から10度毎分の割合で直線的に上昇する水平気流を加えたとき、45分以内で火災信号を発信すること。	室温から2度毎分の割合で直線的に上昇する水平気流を加えたとき、15分以内で作動しないこと。
2種	室温から15度毎分の割合で直線的に上昇する水平気流を加えたとき、45分以内で火災信号を発信すること。	室温から3度毎分の割合で直線的に上昇する水平気流を加えたとき、15分以内で作動しないこと。

表1. 直線上昇試験

試験内容
室温から1度毎分の割合で直線的に上昇する水平気流を加えたとき、公称定温点より10度低い温度以上、10度高い温度以下で火災信号を発信すること。

表2. 定温点試験

## 2. 直線上昇感度試験器の詳細

直線上昇感度試験機は試験箱2台、制御盤1台から構成されています。試験箱は感知器を内部の天井面に取り付け、ヒーターにより加温する箱です。制御盤は、試験箱に設置されたヒーターの制御、制御する箱の切り替え、箱内部の温度計測、感知器の作動時間を計測できるようになっています。



写真1 全体図



写真2 試験箱



写真3 制御盤

(1) 熱気流発生部（ヒーター）

箱内で熱気流を発生させる部分となります。ヒーターによる上昇気流を起点として、奥から手前に循環する空気の流れを作りだします。



写真4 熱気流発生部

## (2) 試料取付板

試料を試験箱に取り付ける部分となります。旧試験機は、図1の様に扉側に感知器を取り付けましたが、新試験機は写真6のように、感知器を取付板に取り付け、箱の開口部に置く方式に変更しています。当該変更により高い密閉性を確保し、配線作業の効率化を図っています。



写真5 試料取付板



写真6 試験箱扉部（試料取付部）

### (3) 試験箱扉

試験箱には2つの扉が設けられています。試料取付用の扉と冷却用の扉となります。試料取付用の扉は、ダンパーを用いて容易に開閉できる様になっています。冷却用の扉は、試験後に高温となった試験箱の温度を下げるため、試験箱前面部を開閉できる様に設けています。冷却の際は、ヒーター奥部に設けたファンを稼働させ、排熱します。



写真7 試験箱扉部（冷却部）

### (4) 温度測定部

温度を計測する部分となります。試験箱の温度計測用に、感知器の近傍温度測定用に各1本、中央制御用及び指示温度計用に各1本の熱電対を設けています。室内の温度計測用に、2本の熱電対を設けています。



写真8 温度測定部（試験箱内）





写真9 温度測定部（室温計測用）

## (5) 操作部

試験器を操作・制御する部分となります。上面パネルでは、使用する試験箱の選択、種別に応じた試験の選択ボタン、試験箱の冷却ボタンを液晶画面内に設けています。作動時間を計測するタイマー及びタイマー停止スイッチを最大5台設けています。非常時を想定して、試験を強制停止させるための非常用停止ボタンも用意しています。

前面パネルは、メインブレーカー、温調器・ヒーター制御器、受信機接続端子、タイマー停止入力端子が設けてあります。温調器・ヒーター制御器は、上面パネルの制御と連動して動作します。受信機接続端子は、使用する試験箱の試料取付部にある端子に接続されており、この端子を経由して感知器と受信機は接続されます。タイマー停止入力端子は、感知器や受信機から移報信号を入力することでタイマーを停止させることができます。



写真10 操作部（上面パネル）



写真11 操作部（前面パネル）

## (6) 指示温度計

旧試験器では、応答性に優れたアナログ計測器であるガルバノメーターを使用していました。製造中止になり入手できないため、同等の性能を持つペーパーレスレコーダーを導入しました。ペーパーレスレコーダーは、温度の計測はもちろん、計測したデータの保存ができ、外部メディアを介してPCへデータの取り込みが可能となりました。



写真12 ガルバノメーター

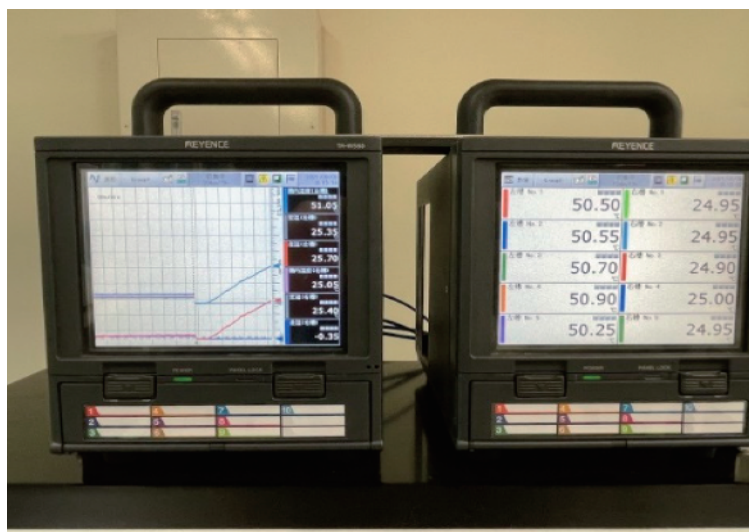
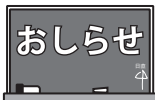


写真13 指示温度計（ペーパーレスレコーダー）



# 「令和4年度一般公開」を終えて

## 企画研究部情報管理課

日本消防検定協会、消防研究センター、消防大学校及び一般財団法人消防防災科学センターでは、例年、発明の日（4月18日）を含む科学技術週間にあたり、科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めていただくことを目的として、4月第3週の金曜日に「一般公開」を開催してまいりました。

しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため一般公開の中止を余儀なくされ、また令和3年度はオンライン開催となりましたが、今年度におきましては消防研究センターホームページによるオンライン開催のほか、消防研究センター及びその周辺に限定して実開催を予定し準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染者数が増加傾向に転じていることから、開催日直前になり実開催のみ中止となりました。

来年度におきましては、コロナ禍が終息し従前のように施設会場においての実開催が執り行われますことを願っております。

### 1 オンライン開催

#### (1) 日 時

令和4年4月15日（金）10時00分から

令和4年4月25日（月）16時00分まで

#### (2) 掲載アドレス

消防研究センターホームページ（<http://nrifd.fdma.go.jp>）

#### (3) 当協会の公開内容

日本消防検定協会の紹介、業務内容、消防機器の型式情報等を映像により紹介しました。

### 2 予定されていた実開催概要（中止）

#### (1) 日 時

令和4年4月22日（金）10時00分から16時00分まで

#### (2) 場 所

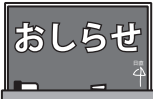
消防研究センター1階展示室及び周辺区域

#### (3) 当協会の展示内容

ア 日本消防検定協会の業務紹介パネル展示

イ 住宅用火災警報器、住宅用消火器啓発チラシの配布

ウ 日本消防検定協会パンフレットの配布



## 有効期限を経過した受託評価品目

### 【屋内消火栓設備の屋内消火栓等・広範囲型2号消火栓】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
認評栓第29～1号	H29.3.17	東京都千代田区内神田3丁目3番13号	株式会社眞和	R4.3.16
認評栓第29～2号	H29.3.27	大阪府東大阪市柏田本町19-6	株式会社大東製作所	R4.3.26

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■■業界の動き■■■

—会議等開催状況—

◆（一社）日本火災報知機工業会◆

○業務委員会 （令和4年4月14日）

- ・令和4年3月度理事会議事録について
- ・住宅用火災警報器関連の報告他  
検定申請個数等の定例報告
- ・事務局長会議の結果について
- ・検定業務等の厳正な実施について
- ・委員長連絡会報告

○メンテナンス委員会

（令和4年4月19日）

- ・点検実務検討小委員会報告
- ・維持運用管理手法小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

○技術委員会 （令和4年4月21日）

- ・火報システム技術検討小委員会報告
- ・火報試験基準検討小委員会
- ・感知器の環境特性調査小委員会報告
- ・委員長連絡会報告
- ・不適切行為に係る注意喚起について

○設備委員会 （令和4年4月28日）

- ・設備性能基準化小委員会報告
- ・工事基準書改訂小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

○システム企画委員会

（令和4年4月22日）

- ・光警報装置設置認知度向上への施策に

ついて

- ・火災通報装置の課題検討について
- ・委員長連絡会報告
- ・不適切行為に係る注意喚起について

○住宅防火推進委員会

（令和4年4月27日）

- ・交換推進WGについて
- ・住宅用火災警報器検定申請数について
- ・お客様電話相談室受付結果について
- ・住宅火災の早期覚知方策のあり方に関する検討部会について
- ・消防庁・東京消防庁・検定協会人事異動情報について
- ・委員長連絡会について

◆（一社）日本消火器工業会◆

○第1回 企業委員会

（令和4年4月7日 対面・Web併用会議）

- ・検定等申請・回収状況
- ・機器協会会長表彰並びに消火器工業会会長表彰候補者の件
- ・令和4年度社会貢献事業の実施計画
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告

○第1回 技術委員会

（令和4年4月11日 対面・Web併用会議）

- ・消火器の検定細則について

## 協 会 通 信

### ○第1回 理事・総務合同会議

(令和4年4月26日)

- ・ 定例報告
- ・ 東京都中小企業振興公社による高性能型消火器補助事業について
- ・ 機器協会会長表彰並びに消火器工業会会長表彰候補者の件
- ・ 令和4年度社会貢献事業の件
- ・ 第62期事業報告(案)承認の件
- ・ 第62期決算報告(案)承認の件
- ・ 新理事候補者選任の件
- ・ 令和4年度定時総会、会長表彰式及び祝賀会・懇親会の取扱いについて
- ・ 第63期会費の額と納入方法(案)承認の件
- ・ 第63期事業計画(案)承認の件
- ・ 第63期収支予算(案)承認の件
- ・ 定款一部変更(誤記訂正)の件
- ・ 機器協会 社会貢献委員会によるウクライナ支援の件

### ◆(一社)日本消火装置工業会◆

#### ○第199回「第二部技術分科会」

(令和4年4月25日 日本消火装置工業会)

- ・ PFOS、PFOAの廃棄処理について
- ・ 泡消火薬剤リストについて
- ・ 海外のPFAS規制について
- ・ その他

#### ○第180回「第三部技術分科会」

(令和4年4月19日 書面会議)

- ・ 点検基準について
- ・ 二酸化炭素消火設備の標識板について
- ・ その他

### ◆(一社)日本消防ポンプ協会◆

#### ○総務委員会

(令和4年4月25日 会場・web併用会議)

- ・ 寄付金について
- ・ 令和3年度事業報告書(案)について
- ・ 令和3年度決算報告書(案)について
- ・ 令和4年度予算書(案)について
- ・ 令和4年度事業計画書(案)について
- ・ 令和4年度消防財政実務研修会について
- ・ 今後の予定について
- ・ その他

#### ○大型技術委員会

(令和4年4月14日 web会議)

- ・ 全国消防長会技術委員会 情報提供について
- ・ 品質評価細則の見直しについて
- ・ 消防シャシ供給遅れ等について
- ・ 銘板見直しについて
- ・ その他

#### ○大型技術委員会・検定協会合同会議

(令和4年4月14日 会場・web併用会議)

- ・ 消防ポンプ自動車 品質評価細則の見直しについて

## 協 会 通 信

## 協会通信

- ・ 銘板見直しについて
- ・ 消防シャシ供給遅れ等について
- ・ その他

### ○小型技術委員会

(令和4年4月11日 会場・web併用  
会議)

- ・ 可搬消防ポンプ積載車 品質評価細則  
の見直しについて

- ・ その他

### ○「六十年のあゆみ」編集委員会

(令和4年4月15日 会場・web併用  
会議)

- ・ 校正について
- ・ 発送先について
- ・ その他

協会通信

検定協会だより 令和4年5月

◆◆人事異動◆◆

◆日本消防検定協会◆

○令和4年4月30日付

(氏名)

(新)

(旧)

【退職】

大久保 一広 辞職

総務部 審議役  
兼 企画研究部 審議役  
兼 消費者相談室長  
兼 製品事故等担当

○令和4年5月1日付

(氏名)

(新)

(旧)

【職務名の一部変更】

加藤 達也 企画研究部 業務統括役  
兼 消費者相談室長  
兼 製品事故等担当  
次席検定員

企画研究部 業務統括役  
次席検定員

◆消防庁人事◆

○令和4年4月30日付

(氏名)

(新)

(旧)

高荒 菜花 出向  
併任解除  
併任解除  
【総務省大臣官房秘書課課長補佐  
へ】  
(辞職)

消防・救急課課長補佐 併任 消防  
・救急課広域化推進専門官 併  
任 消防・救急課消防職員専門官

重田 剛 辞職  
【川崎市消防局総務部人事課へ】

予防課特殊災害室コンビナート保  
安係長 併任 予防課特殊災害室  
コンビナート審査係長



## 協会通信

○令和4年5月1日付

(氏名)	(新)	(旧)
籾野 敏行	併任 消防・救急課消防職員専門官	総務課理事官 併任 総務省大臣官房総務課公文書監理室室長補佐
小林 亮介	併任 消防・救急課課長補佐 併任 消防・救急課広域化推進専門官	総務課課長補佐 併任 総務課DX推進専門官
高橋 芳和	予防課特殊災害室コンビナート保安係長 併任 予防課特殊災害室コンビナート審査係長	川崎市消防局予防部危険物課担当係長

協会通信

検定協会だより 令和4年5月

# 新たに取得された型式一覧

## 型式承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認年月日
定温式住宅用防災警報器	住警第2022～2号	矢崎エナジーシステム株式会社	外部電源方式 (AC100V、8 mA)、自動試験機能付	R4.3.22

## 品質評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
動力消防ポンプ	P1112	長野ポンプ株式会社	消防ポンプ自動車、A-1、NF221A	R4.3.28
	P1126	長野ポンプ株式会社	消防ポンプ自動車、A-2、NF221A	R4.3.28
	P181E	株式会社モリタ	消防ポンプ自動車、A-1、MGV6500A	R4.4.1
消防用ホース	H0725DC07A	オカニワ株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称40 (シングル、ポリエステル/アラミド・ポリエステルフィラメント綾織、円織)	R4.3.28
	H0725FC09A	オカニワ株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称65 (シングル、ポリエステル/アラミド・ポリエステルフィラメント綾織、円織)	R4.3.28
	H0725FC10A	オカニワ株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称65 (シングル、ポリエステル・ポリエステルフィラメント綾織、円織)	R4.3.28
蓄圧式消火器用指示圧力計	品評圧第2022～1号	株式会社初田製作所	31mm、スパイラルブルドン管式 (SUS) (0.7～0.98MPa)	R4.3.15
消火設備用消火薬剤	品評剤第2022～1号	ヤマトプロテック株式会社	第三種浸潤剤等入り水	R4.3.23
特殊消防ポンプ自動車又は特殊消防自動車に係る特殊消火装置	NDC-A2F-1	日本ドライケミカル株式会社	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車	R4.3.17
	NDC-A4F-1	日本ドライケミカル株式会社	化学消防ポンプ自動車	R4.3.24
	NP-P2A-3	長野ポンプ株式会社	化学消防ポンプ自動車	R4.3.25
	NP-P2-10	長野ポンプ株式会社	化学消防ポンプ自動車	R4.3.28
	MQC24・MCE-7-1	株式会社モリタ	大型化学高所放水車	R4.4.1
	GMC-C3A-4	ジーエムいちほら工業株式会社	化学消防ポンプ自動車	R4.4.4

## 認定評価 型式評価

種 別	型式番号	依頼者	型 式	承認年月日
非常警報設備・増幅器及び操作部	認評放第2022～5号	TOA株式会社	AC100V、最大24000W	R4.3.24
非常警報設備・スピーカー	認評放第2022～6号	TOA株式会社	コーン型（5W／10W／15W／20W／30W・L級）、音響パワーレベル92dB	R4.3.29

## 認定評価 型式変更評価

種 別	型式番号	依頼者	型 式	承認年月日
非常警報設備・スピーカー	認評放第2020～9～1号	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	コーン型（1W／3W・L級）、音響パワーレベル92dB	R4.3.29

## 検定対象機械器具等申請一覧表

種別	型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定				
			申請件数	申請個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
消火器	大型	0	0	23	3,789	196.3	196.3
	小型	0	0	69	390,373	117.1	117.1
消火器用消火薬剤	大型用	0		3	527	924.6	924.6
	小型用			8	3,826	52.2	52.2
泡消火薬剤		0		16	54,100	41.8	41.8
感知器	差動式スポット型	0	0	31	309,384	173.5	173.5
	差動式分布型	0	0	10	6,600	135.5	135.5
	補償式スポット型	0	0	0	0	-	-
	定温式感知線型	0	0	0	0	-	-
	定温式スポット型	0	0	37	145,180	197.0	197.0
	熱アナログ式スポット型	0	0	8	10,008	150.9	150.9
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	0	0	-	-
	光電式スポット型	0	1	48	148,440	141.6	141.6
	光電アナログ式スポット型	0	0	20	81,806	178.1	178.1
	光電式分離型	0	0	6	235	235.0	235.0
	光電アナログ式分離型	0	0	0	0	-	-
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	0	-	-
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	紫外線式スポット型	0	0	0	0	皆減	皆減
	赤外線式スポット型	0	0	5	699	111.0	111.0
	紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	1	274	皆増	皆増
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	11	28,186	156.4	156.4
	P型2級	0	0	8	5,740	349.6	349.6
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		1	1	90	46,261	136.7	136.7
受信機	P型1級	0	0	46	2,456	144.6	144.6
	P型2級	0	0	23	3,152	174.4	174.4
	P型3級	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	6	118	137.2	137.2
	G型	0	0	5	6	50.0	50.0
	GP型1級	0	0	9	11	78.6	78.6
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	10	57,548	187.6	187.6
	GR型	1	1	16	142	66.0	66.0
閉鎖型スプリンクラーヘッド	0	0	36	149,307	94.6	94.6	
流水検知装置	1	0	45	2,031	87.1	87.1	
一斉開放弁		0	0	20	938	51.4	51.4
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	1	20	80.0	80.0
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	20	9,700	70.4	70.4
緩降機		0	0	2	280	46.7	46.7
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	0	18	39,480	48.6	48.6
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	0	0	31	143,520	38.5	38.5
合計		3	3	682	1,644,137	102.4	102.4

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

## 性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

## 受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比 (%)	対前年 累計比 (%)	
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-	
音響装置	0	0	0	1	500	166.7	166.7	
予備電源	0	0	0	1	18,000	98.9	98.9	
外部試験器	1	0	1	1	30	23.1	23.1	
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	0	0	0	-	-
	受信装置等	0	0	0	0	0	-	-
光警報装置		0	0	0	0	0	-	-
	光警報制御装置	0	0	0	1	50	皆増	皆増
屋外警報装置		0	0	0	0	0	-	-
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	0	-	-
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	2	80,000	262.3	262.3	
蓋圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	12	477,500	111.3	111.3	
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	0	5	5,550	53.4	53.4	
消火設備用消火薬剤	0	0	0	6	27,689	47.8	47.8	
住宅用スプリンクラー設備		0	0	0	0	0	-	-
	構成部品	0	0	0	0	0	-	-
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	0	0	0	3	3	37.5	37.5
	可搬消防ポンプ	2	0	0	3	229	86.1	86.1
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	0	0	2	480	59.3	59.3
	呼称65以下のもの	0	0	0	1	200	80.0	80.0
消防用ホース	平 40を超えるもの	0	0	1	10	12,888	60.8	60.8
	平 40以下のもの	0	0	2	10	24,643	54.9	54.9
	濡れ	0	0	0	0	0	-	-
	保形	0	0	1	4	3,500	38.9	38.9
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	0	皆減	皆減
消防用結合金具	差込式	2	0	0	25	89,462	97.6	97.6
	ねじ式	0	0	2	16	11,530	69.7	69.7
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	0	-	-
	同一形状	1	0	2	3	222	22.8	22.8
漏電火災警報器	変流器	0	0	0	15	6,212	292.3	292.3
	受信機	0	1	2	8	3,641	229.6	229.6
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	3	44,470	409.0	409.0	
特殊消防ポンプ自動車	2	0	0	0	0	皆減	皆減	
特殊消防自動車				2	2	皆増	皆増	
可搬消防ポンプ積載車	0	0	0	0	0	-	-	
ホースレイヤー	0	0	0	2	2	66.7	66.7	
消防用積載はしご	0	0	0	8	160	1,600.0	1,600.0	
消防用接続器具	1	0	0	11	1,943	68.5	68.5	
品質評価業務				確認評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比 (%)	対前年 累計比 (%)	
外部試験器の校正				9	32	145.5	145.5	
オーバーホール等整備				5	5	250.0	250.0	

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

# 令和4年4月

認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比 (%)	対前年 累計比 (%)	
地区音響装置	0	0	0	28	38,316	172.1	172.1	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	0	0	1	42	7,340	134.2	134.2
	放送設備	1	3	15	64	62,633	121.5	121.5
バケージ型自動消火設備		0	0	0	0	0	-	-
	構成部品	0	0	0	0	0	-	-
総合操作盤	0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	0	9	1,275	45.5	45.5
	2号消火栓	0	0	0	4	400	24.8	24.8
	広範囲型2号消火栓	0	0	0	2	180	31.9	31.9
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-
	ノズル	0	0	0	23	6,782	111.4	111.4
認定評価業務	装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等	消防用ホースと結合金具の装着部	0	0	10	18,856	27.7	27.7	
認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備	0	0	0	12	11,628	167.5	167.5	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備 (評価)	0							
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置	0	0	0	3	9	90.0	90.0	
特定機器評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等	0	0	0	2	14	3,909	16.2	16.2
受託試験及びその他の評価	依頼件数			依頼件数	依頼個数	対前年 同月比 (%)	対前年 累計比 (%)	
受託試験 (契約等)	0							
受託試験 (その他の契約等)				0	0	皆減	皆減	
評価依頼 (基準の特例等)	0							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

# 編集 後記

我が国では、第1次ベビーブームで生まれた方々、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者となる2025年問題を間近に控え、今後、高齢化社会の新たなフェーズを迎えます。本年4月からは、年金支給開始年齢の75歳への繰下げ選択も始まったほか、高齢者雇用への対応なども進められているところです。

消防職員はじめ地方公務員の定年は、令和5年度から段階的に引き上げられるほか、役職定年制等の新たな制度が導入されますが、60歳以降も働く高齢期職員がモチベーションを持続し、幅広い職域で活躍できるような人事管理の工夫や活用事例の水平展開も必要になります。

こうした中、総務省は、令和4年3月に「地方公務員の定年引上げに伴う高齢期職員の活用に関する検討会報告書」を取りまとめ、公表しています。

概略になりますが、高齢期職員の活躍のためのポ

イントとして、「基本的考え方」としては、組織として、高齢期職員が、より多様な分野で、これまでの経験等を生かした能力を発揮できる業務に従事し、活躍できる人事管理が必要などとし、「高齢期職員に期待される役割とその役割を果たすための人事配置」としては、役割として業務担当としての即戦力として活躍、若手職員の支援により次世代へ知見の伝承などとし、「高齢期職員の活躍促進のための取組・工夫」としては、研修による期待される役割の本人の理解や周囲の職員の理解などとしています。

報告書の詳細は、総務省HPでご確認ください。

さて、今月号では、神戸市消防局長の鍵本敦様には巻頭のことばをご寄稿いただき、誠にありがとうございました。

6月号では、仙台市消防局長の結城由夫様には巻頭のことばを、当協会からは「令和3年度の検定業務を振り返って」などを掲載する予定です。

## 検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不動作、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例（成功例又は失敗例）

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16  
日本消防検定協会 企画研究課  
電話 0422-44-8471（直通）  
E-mail  
<kikenka@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<http://www.jfeii.or.jp>



本 所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-16  
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大阪支所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル4階  
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル16階  
TEL 03-5962-8901 FAX 03-5962-8905

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。

e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415



日本消防検定協会